

開墾に着手し、現在の洞爺村の基礎ができ上がって行きました。

明治二十年に移住して明治三十年頃まで当時の本村を含む虻田村の基幹農作物は小豆が圧倒的にトップで、その後は昭和十年ころまで大豆が最も多く作られました。

二級町村虻田村所属

村会議員選挙行われる

わが国で市制及び町村制が公布されたのは、明治二十一年ですが、北海道はずっと遅れて明治三十三（一九〇〇）年、室蘭町ほか十五町村に一級町村が、明治三十五（一九〇二）年、虻田村ほか六十一の村に二級町村制がしかれ、虻田村・弁辺村組合役場が設置され、初代村長が就任しました。

初めて村会議員選挙が行われましたが、選挙は男性、税金や耕地所有面積等による資格制限選挙であり、明治三十

五（一九〇二）年の虻田村（今の虻田町と洞爺村）の六二八戸、人口四四八四人のうち、有権者はたった一六三人でした。

同年、向洞爺郵便取扱所の

開設、向洞爺に巡査駐在所、医院などが設置されました。明治四十（一九〇七）年には、富丘部落の開拓が開始され、最初に仙台団体が五・六十戸入植したと伝えられてい

ます。大正三（一九一四）年、虻田村役場から出火し、庁舎を全焼、重要書類全部を焼失する事件もありました。

分 村 図

